

～育てよう 楽しもう 花作り～
「花をきれいに長く楽しむ
栽培管理」



もくじ

1 花を長く楽しむ栽培管理を確認しよう.....	1
2 栽培の計画をたてよう.....	2
3 花壇苗を植えつけよう.....	3
4 花の観賞期間を長くするコツ(その1).....	4
5 花の観賞期間を長くするコツ(その2).....	5
6 草花の管理記録簿.....	7

名前

1 花を長く楽しむ栽培管理を確認しよう

種まきをガーデニングのスタート地点とするなら、花壇やコンテナに花壇苗を植えつけるのは、ちょうど中間地点と考えられます。

ここからは、満開のゴールを目指して、花が本来持っている潜在能力を最大限に引き出していきましょう！

それでは、植えつけた花を長く楽しむ栽培管理の大まかなチェックポイントを確認します。



1) 栽培の計画

- 花壇やコンテナの完成した状態をイメージできていますか？
→ 植えつけ後の生育をイメージします。
- 植えつける花は何にしますか？
→ 開花時期、草丈、管理方法などから花の種類を決定します。



2) 花壇・コンテナへの植えつけ

- 植えつけ本数は適切ですか？
→ 植えつけ後の生育を考えて決定します。
- 植えつけの準備はできていますか？
→ 培土・耕うん・肥料・農薬など植えつけの準備を整えます。
- 植えつけまでの手順は確認できましたか？
→ 根の状態によって適切に前処理をおこないます。



3) 管理方法（その1：施肥とかん水）

- 適かん水ができていますか？
→ 水のかけ過ぎは厳禁です。
- 適切に肥料を与えていますか？
→ 必要な時に、必要な量を与えます。



4) 管理方法（その2：花のお手入れ）

- 花が咲き終わった後の管理は適切ですか？
→ 上手に管理すれば、さらに長く花を楽しむことができます。
- 病害虫の発生はありませんか？
→ 老化した花や葉は早めに取り除きます。
- 花の草姿が乱れてきていませんか？
→ 生育の仕方から適切な管理を行います。



2 栽培の計画をたてよう

植えた花が生長した状態をイメージするには、植物の性質を知る必要があります。ここでは一年草を中心に紹介していきます。

1) 開花時期からイメージしてみよう！

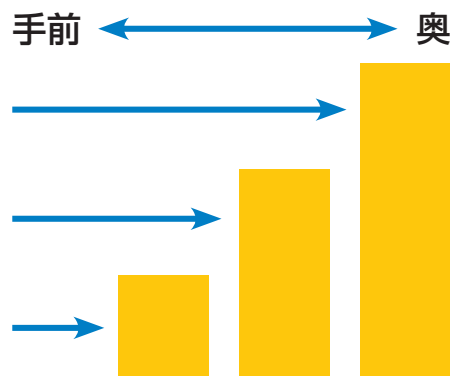
日本には四季があるので、一年中咲き続ける花はありません。四季折々で花を植え替えていくことで花壇を良い状態に保ちましょう！

花壇で楽しむ時期	春から秋	秋から春
草花の例	サルビア、ペチュニア マリーゴールド など	パンジー、 ビオラ、デージー など
使い方	暑い夏をのりきる花壇に	寒い冬をのりきる花壇に

2) 草丈からイメージしてみよう！

草丈の高いものを奥、草丈の低いものを手前に配置すれば、狭い花壇でも立体的に見せることができます。

高いもの	コスモス、ヒマワリ など
中間のもの	サルビア、マリーゴールド ペチュニア など
低いもの	パンジー、アリッサム ガザニア など



3) 管理方法からイメージしてみよう！

植物にあった管理を行えば、観賞期間は驚くほど長くなります。それぞれの植物で、どのような管理方法が必要か整理しましょう！

花から摘み



切り戻し



管理不要



3 花壇苗を植えつけよう

①土づくりを行います(植えつけ約10日前)。

1㎡あたり、完熟たい肥(5kg)、緩効性肥料(50g)、又は普通化成(100g)、苦土石灰(100g)をすき込みながら、約30cmの深さに土を耕し、その後平らに整地します。

プランターの場合は市販の培養土を使います。

→肥料がすでに入っていることが多いです。



緩効性肥料とは

一定期間効果が持続する肥料で、元肥と追肥の両方に利用することができます。

化学反応で溶けにくくしたのものや、肥料の表面を樹脂などで覆ったものなどがあります。

②根鉢を軽くほぐします。

ポット内で根がまわり過ぎている場合は、新しい根の発生を促すため、根鉢を軽くほぐします。

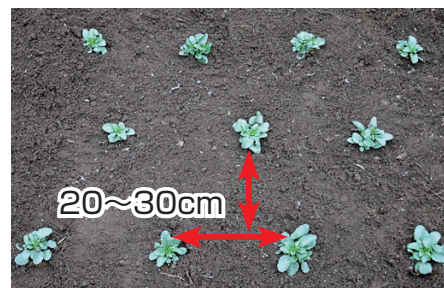
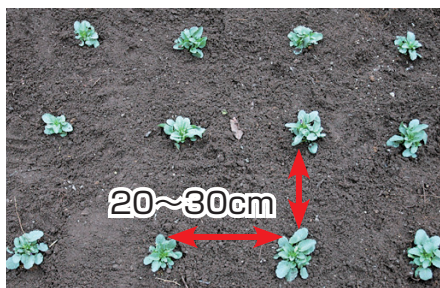
植えつけ適期の苗はそのまま植えつけましょう。



③花壇苗を植えつけていきます。

一般的なプランターの場合は4～5本の花壇苗を、花壇の場合は株間20～30cmで植えつけます。

株元が地面より下がって深植えにならないように注意しましょう。



④十分にかん水します。

プランターの場合、鉢底から水がしみ出るまで与えましょう。

その後は、土の表面が乾いてきたらかん水してください。

雑草とのたたかいに勝つために(除草のコツ)

花壇の場合、株が地面を覆ってくるまでの間に、いかに除草するかがポイントとなります。

熊手やねじり鎌などで、株間を軽く耕す(中耕)ことで、雑草の発生は驚くほど簡単に抑えられます。

さらに、空気の通りがよくなり、花の根の生長も促進されます。

早めの中耕を心がけましょう!



ねじり鎌



熊手

4 花の観賞期間を長くするコツ（その1）

植物を栽培するうえで、かん水と施肥のタイミングはとても大切です。適期に与えれば生育を促進しますが、過剰になってしまうと逆に花の生育を阻害することにもつながります。ここでは、かん水と施肥について紹介します。

1) かん水のタイミング

～コンテナの場合～

土の表面が乾いたら、底から水が流れ出るまでたっぷりかん水しましょう。

受け皿を使っている場合は、受け皿にたまった水は必ず捨てましょう。



『乾いたら たっぷり 株元に』が基本

Point 1 乾いてからかん水

植物は水を吸収するために根を伸ばしていきます。常に水がある状態では、しっかりした根が張ってくれません。一定の間隔で乾湿を繰り返すことが、健全な根の生育には欠かせません。

Point 2 たっぷりとかん水

かん水には植物に水を与えるだけでなく、土壌中に新しい空気を送り込む役割もあります。土の表面だけを濡らしても、土壌中の空気は入れ替わりません。かん水する時は、たっぷり与えることが大切です。

Point 3 株元にかん水

開花している花に直接かん水してしまうと、病気の原因になってしまいます。株元へのかん水を心がけましょう！

～花壇の場合～

植えつけ直後、日照りが続く時期以外は基本的にかん水の必要はありません。

2) 追肥のタイミング

肥料の量が多すぎると、根に障害が起こってしまいます(肥料やけ)。肥料に表示されている量を必ず守りましょう。

効果が1～2ヶ月持続する緩効性肥料が便利です。

除草や中耕、切り戻しなどと同時に起こすと、さらに効果的です。



5 花の観賞期間を長くするコツ（その2）

しっかり手入れして、花が持つ力を引き出そう！

植えつけから時間がたってくると、草姿が乱れてきたり、枯れた花が目立ってきたりしてきます。

ここでは、花のタイプ別の管理方法について紹介していきましょう。

1) 花がら摘みで管理していくタイプ

パンジーやベゴニア、マリーゴールドなどは、次々と新しい花を咲かせてきます。

同時に古い花は次々と枯れてきてしまいます。

咲き終わって枯れた(老化した)花は花がらと呼ばれ、残しておくとも株に悪影響をおよぼします。

花がら摘みをしないと…

- 病気の発生源になります。
→特に灰色かび病に注意！
- 種がついて、花つきが悪くなります。
→種が充実するのに栄養がとられてしまう！



①花が老化してきたら花がらを摘みます。

パンジーの場合は、花の根元から花柄(かへい)ごと摘み取ります。花びらだけを摘み取っても、種ができてしまいますので注意しましょう！

マリーゴールドの場合は、花の部分だけを摘み取ります。



②摘み取った花がらは残さないこと。

摘み取った花がらを花壇やプランターの中に残しておくとも、そこに病原菌が繁殖してしまいます。

確実に捨てるのが、病気予防の大切なポイントです。



2) 切り戻しで管理していくタイプ

ペチュニアは茎を伸ばしながら、先に先に花をつけていく性質があります。

そのため、花の生長とともに茎が伸びてきて、草姿が乱れてしまいます。

そこで、必要となるのが切り戻しの作業です。

ここでは、ペチュニアの切り戻し方法を紹介します。



①草姿が乱れてきたら切り戻し適期。

右の写真のように茎が伸びて草姿が乱れてきたら、切り戻しをおこないます。

そのままにしておくと、茎の先端部分でしか開花しなくなり、中心部分がさみしくなってきます。



②茎を約1/3の長さに切り戻します。

茎の先端部分に未開花のつぼみもありますが、思い切ってすべての茎を切り戻しましょう！

この時、肥料を与えます。

もったいないと感じるかもしれませんが、ここですべての茎を切り戻すことで、一斉にわき芽が生育し、次の開花も揃ってきます。



③3～4週間後には元の状態に戻ります。

すべての茎を切り戻したことで、一斉に開花してきます。草姿が乱れるまで(数週間)は、老化した花を取り除くだけでOKです。

草姿が乱れてきたら、①に戻れば何回も花を楽しむことができます。



3) 管理を必要としないタイプ

メランポジウムやノースポールは、新しい茎が古い花を覆うように生長し、その先で新しい花をさかせます。

そのため、花がら摘みや切り戻しといった管理が不要となります。

あまり手をかけられない花壇では、力強い味方となってくれます。



〈作成協力〉千葉県立鶴舞桜が丘高等学校

草花の管理記録簿

○草花の性質について

植物名	開花期 (春から秋・秋から春)	草丈 (高・中・低)	管理方法 (切り戻し・花がら摘み・不要)

○肥料について

肥料名	分類 (速効性・緩効性)	肥効	使用量

○管理・作業記録簿

日付	作業	備考